

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年 9月15日
(71号)

中之島二〇二〇

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学塾・中之島 祝 第七期入塾式

平成30年9月15日

「歓迎のことば」

代表 宮武清寛



第七期がスタート致しました。
皆様「人間学塾・中之島」への入塾
おめでとうございます。
そして、ありがとうございます。

月日の流れは早いですね。天分塾の学びを継続する為に、「人間学塾中之島」を開催すると決めた時には、不安でいっぱいでしたが、それが、あつという間に六年が過ぎ七期のスタートです。そして今年も〇〇名もの全国の学びの友がはせ参じてくれました事は感謝にたえません。まさに人間学塾・中之島の学びが皆様に受け入れられてきているという事でしょうか、私は感動しその事を実感いたしました。

では、「人間学塾中之島の学び」というものをもう一度考えてみましょう。

「人間学塾・中之島」は塾是に掲げている通り、森信三先生の教えを中心とした学びの場です。森信三先生の代表的な著書に「修身教授録」という本があり、そこには、何の為に学ぶのか？何に学ぶのか？の答えがあります。

第一部第八項には「学問・修養の目的」と題した文章の中に何のために学問・修養をするのか、という事が書かれています。結論から言いますと、「人となる道」を明らかにするためです。さらに、「日本国民としての道」を明らかにし自分が天から受けた「天分」を発揮する為と説明されています。

又、第一部第十一項には、「人と禽獣との異なるゆえん」と題し、我々人間は、自己がこの世に生まれ出た真の意義を知り、自らの使命を自覚して、いささかでもこれを実現しようとするところに、人と禽獣との真の本質的な違いがあると言うべきでしょう。ですから、今我々人間にして、人生の意義の何たるかを知らず、したがってまた自己の生涯をいかに過ごすべきかに考え至らないものとも言えましょう。と書かれています。

そして、私の「論語」の先生伊與田寛は、「成人」について、こんな事をおっしゃっています。

一つは「成人に達している」。即ち二十歳になると誰でも成人と呼ばれるようになるわけです。もう一つは「人と成る」という意味です。「大人」という意味の成人は、特別の努力をしなくても二十歳になれば、誰でもが成人と言われるようになるわけですが、「人と成る」と言う方は、立派な人になる。人間らしい人間に成るという意味ですから、これには努力がいるわけです。

人間は、神仏と動物の中間に存在し、その両方の特徴を備えています。ですから神仏と動物のどちらの方に向かって努力するかによって、同じ人間でもまったく逆の方向に進んで行きます。だから、「人と成る」ためには人間が生まれながらにして与えられている徳性を育成する学問が必要です。これを「人間学」といいます。

学ぶ、というのは、「人と成る」ということにあるのです。では、何によって学ぶのか？

というと、「書物」と「人物」という事になります。

人間学には三学があります。それは「小学」「大学」「中学」です。もちろん森信三先生の著書や現代の作家の中にも学ぶべき書物は沢山あります。

そして、人物から学ぶ。世界の偉人や先哲の生きざま・足跡をたどる事から学べます。

「人間学塾・中之島の学び」はどちらかと言うと「人物」から学ぶ方に軸足を置いています。著名な講師をお招きして直接お話を聞き、その内容について皆で討論します。

「人物」から学ぶといえば、実は私達の廻りにも素晴らしい人物が沢山います。もちろん塾生の中にです。

そんな人達との出会いや親好を深める中からも多くの学びが得られます。そんな身近な立派な人達を見出して「学びの友」としてお互いに切磋琢磨していきしょう。

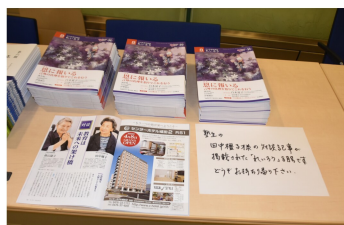
「学ぶ楽しさ」「出合いの感動」を常にもちたいものです。この七期も塾生通しの繋がり・絆で一体感のある塾にしていきたいですね。

私も入塾していただきました皆様方の期待に応えられるよう全力を尽くして運営をしてまいりますのでよろしく

第六期 卒塾式

於 平成30年8月11日





総 親 会



『お薦め書籍』

『見る力 アガワ流介護入門』

阿川佐和子 著



出版 文春新書
頒価 842円(税込み)
ISBN: 978-4-166611720

幅広いジャンルで活躍している阿川佐和子さんですが、父・弘之氏の最晩年に病院に付き添い、いまでも認知症のはじまった母の介護を続けるなど、実は介護経験も豊富です。そんな阿川さんが、高齢者医療の第一人者である大塚宣夫よりランド慶友病院会長と、理想の介護法、理想の老後を語り合います
阿川さんの体験的介護法は、実に説得力があります。

『先哲に学ぶ生き方』

森信三 先生

『人間の確立』

「艱難汝を玉にす」とは古いコトバですが、これは甘えようにも甘えることができないような酷烈な境遇に放り込まれることが、人間が真に確立するためには絶対に必要だということにほかなりません。

森信三

『運命を創る一〇〇の金言』より

『人間学塾・中之島』

■ 第7期

*日時 10月13日(第二土曜)

*場所 センター

10F 佐治敏三ホール

*人間学講座 st 鈴木秀子先生

「いま目の前のことに

心を込めなさい」

東京大学人文科学研究科博士課程修了。文学博士。フランス、イタリアに留学。ハワイ大学、スタンフォード大学で教鞭をとる。聖心女子大学教授(日本近代文学)を経て、国際コミュニケーション学会名誉会長。聖心女子大学キリスト教文化研究所研究員・聖心会会員。文学療法、ゲシュタルト・セラピー日本にはじめてエニア

『秋季宿泊研修』案内

★ 日程 11月10日(土)～11日(日)

★ 高野山(宿坊 無量光院)

★ 人間学講座

第一日目 木地茂典先生(岡潔数学WAVE会長)

「岡潔博士と日本の情緒」

第二日目 武藤杜夫先生(日本子ども未来支援機構)

「なぜ少年院で人生が変わるのか」

- ・ 映画上映
- ・ 阿字観体験(予定)
- ・ 勤行
- ・ 写経

※ 詳細は、10月案内を配布

ほか行事検討中

『大悟徹底』(寺田一清名誉顧問のお話を抄録)



「共に学びつづけますよう」

天分塾が歳月を重ね、ここに第八期を無事発足できることは、何よりの喜びです。しかも新塾生が定員をすでに超え、研修生も定員の確保ができたことは、ホッと安心すると共に、新たな意欲的な取り組みについて、決心覚悟を促すものがあります。

さて今期の塾生・研修生の「お申込書」のまとめを拝見して感じますことの一つは、男女比率の差です。塾生の場合は、従来男性六割女性四割だったのが逆転し男性四割女性六割となりました。研修生はほぼ同数ということですが、いまひとつの特色は、平均年齢が、やや低くなりつつある傾向で、四〇代以下が六割を占めるという現状です。

ところで、第八期のスタートにあたり、改めて天分塾の「理念」の確認が何よりと思うわけです。ここで最近突発したJR西日本の「脱線事故」を思い起こされることでしょうか。鉄道事業の根本的見直しが改めて確認されたことでしょうか。

常に私共は「第一義」の確認と自覚を新たにし、自己の責務と責任を果たさねばなりません。即ち

- 人生の「第一義」は何か
- 職務の「第一義」は何か
- 家庭の「第一義」は何か
- 経営の「第一義」は何か
- 教育の「第一義」は何か

そこで「天分塾」の三大理念について考えるに、

- 「一人一人生」とは、「人生二度なし」です。
 - 「一人一天分」とは、「天分の發揮と実現」です。
 - 「一人一使命」とは、「人のため世のため」です。
- この「生き方」の三大原理について、いささかのたねまきが出来ましたら何より幸いと念ずる

これが天分塾の理念であります。

平成17年6月「天分塾ニュース」より